

欠席委員からの意見について

1. 東濃県事務所 所長 野田泰弘氏
ヒアリング日時 10/6(火)13:30-14:20

③にぎわいと活力のあるまちづくり

施策1：地場産業の支援（資料 7-2 p20）

T P Pによる陶磁器関係の関税撤廃に伴い、美濃焼業界が海外展開を進める好機である。意欲のある事業者への支援と共に、海外で受け入れられるデザイン性の高い製品の開発支援等、行政として地場産業振興への支援の姿勢として打ち出す必要がある。

施策5：観光振興（資料 7-2 p21）

東濃3市、東濃5市といった広域的な視点による取組が必要。
増加する外国人観光客の受入れ体制をソフト、ハード面で整える必要がある。とりわけ、英語によりサイン表記は最低限必要である。

④安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

施策13：道路整備（資料 7-2 p33）

渋滞対策だけでなく、防災対策や交通安全対策としての道路整備を進めるという観点が必要である。

⑤市民が互いに助け合い学び合うまちづくり

施策2：市民活動支援（資料 7-2 p39）

市民ニーズの高まりや新たな課題など行政の役割が多岐にわたる時代に、行政のみでこれらに対応していくことは困難であり、市民やN P Oとともに取り組んでいくことが必要であるが、この点を強く押し出すべきである。

2. 多治見砂防国道事務所 所長 草野愼一氏
ヒアリング日時 10/7(水)9:00-9:45

③にぎわいと活力のあるまちづくり

施策4：にぎわいの創出（資料 7-2 p21）

多治見駅周辺のにぎわいを創出するため、一般的にはソフト対策を実施するが、今後はドイツで取り入れられているようなハード対策（歩行者専用道路の設置、ベンチやテーブルを置いての人の集客）に取り組む必要がある。それにより経済の市内循環が図られにぎわいが創出される。

④安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

施策11：定住促進（資料 7-2 p32）

高齢化が進んだ団地を再生させるには、団地の再開発が必要である。立地条件的に駅に近い団地は市民ニーズが衰えず、住宅需要が継続していくため再生が可能となる。

しかし、郊外の団地を活性化するには路面電車など乗車スペースに余裕のある鉄道が不可欠である。

⑤市民が互いに助け合い学び合うまちづくり

施策1：地域防災・防犯活動の支援（資料 7-2 p38）

日頃から地域における助け合いの意識を高めていくためには、幼少期からの防災教育が必要不可欠である。国では市内8小学校を対象に砂防事業に関する教室を開催するとともに、市之倉地区では中学1年生と一緒に砂防里山事業にも取り組んおり、今後も引き続き力を入れていく。

③にぎわいと活力のあるまちづくり

施策 4：にぎわいの創出

多治見駅周辺のにぎわいを創出するために、多治見駅周辺に車の通行を規制するスペースの確保や、ベンチやテーブルを置いて人が集まれる場所を作ることが必要ではないか。先進国ドイツでは取り組んでいて成果を上げているし、国内のショッピングモールも同様の形状で繁盛している。

また、オリベストリートを期間限定で歩行者天国にしてイベントを打つのも効果があるのではないかな。

④安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

施策 13：道路整備

国道 19 号の渋滞対策は国としてしっかり行っていく。多治見市、土岐市、警察、NEXCO 中日本、国で対策協議会を立ち上げてイオンの対策についても考えていく。

⑤市民が互いに助け合い学び合うまちづくり

施策 1：地域防災・防犯活動の支援

平成 11 年から市内 8 小学校を対象に砂防事業に関する教室を開催するとともに、市之倉地区では中学 1 年生と一緒に砂防里山事業として植林や間伐などの事業に取り組んでいて今後も力を入れていく。全国的に見ても昔から砂防教育がこんなに長い間続いている事例はほとんどないので今後も続けていきたい。